

東大、印TCSと協定

デジタル技術で社会問題解決

東京大学とインド最大手のITサービス企業タタコンサルタンシーサービスズ（TCS）は、デジタル技術を活用して社会問題解決するための共同研究に向けた産学協創協定を結んだ。東大の研究力と、TCSのITやエンジニアリングの知見を融合。人間の日常の労働環境で自律型ロボットを動かすシス

テムの開発などのほか、プログラミングを通して論理的思考を身につけた次世代の人材育成などを行う。

技術連携として、東大大学院情報理工学系研究科と人が柔軟に働くための自律型ロボットのシステムを研究。

一方、人材交流では、TCSが組み込みシステムやロボティクスの特別講義をリモートで学部生や大学院生に実施するのに加え、インターシップ（就業体験）の機会も提供する。

地域コミュニティーへの貢献として、中学生にドローンを活用したSTEM教育の出張授業なども行う。また、イノベーション創出のためのデザイン思考の枠組みを模索するほか、東大に関連する約400の有望なスタートアップ企業に対し、グローバル展開の機会の提供も予定する。

TCSはインド最大財閥タタ・グループの中核企業。五神真東大総長は「東大とTCSの産学協創が、現代社会が直面する課題の解決にとどまらず、日本とインドの協力、両国の今後の発展を進めることに期待する」とコメントした。